

工サ代高騰・牛乳余り・子牛の価格低迷

減る酪農家

酪農家をやめる人が増

えている。

ロシアによるウクライナ侵攻後に飼料

(エサ)代が高騰したことに加え、コロナ下の外食控えなどで牛乳がだぶついて価格が上がりにく

い。乳牛が産み、肉牛用として売れるオズの子牛の価格も低迷し、三重苦

が、月別の生産量は22年

8月以降、前年を下回

たが、22年2月までの3

年間は毎年500戸ほど

の減少だった。

主要因は工サの高騰

だ。業界団体のJミルク

によるトウモロコシ

などが原料の配合飼料価

格は今年2月で1㌧約9

万9千円。昨年2月以

ては、新鮮な牛乳を十分

入手しづらくなる可能

性もある。

生乳の価格は、酪農家

が販売を委託する国指定

の団体と乳業メーカーが

交渉して決めるが、消費

を冷やす懸念から大幅に

上昇づらい。飲用の乳

価は昨年11月、1㍑あた

り10円上がったが、北海

道大学大学院の清水池義

治准教授（農業経済学）

の試算では、コスト上昇

による酪農家の所得減は

1㍑20㌘30㌘で、減少分

は9587円の3割強だ。

（前川浩之）

